

# 2019

## 社会福祉法人健翔会 新年のご挨拶



平成 31 年 1 月 14 日

理事長 渡辺 弘

### 健翔会本部

2018 年の報告

2018 年 2 月

理事会

平成 30 年度予算審議

平成 29 年度補正予算審議

2018 年 5 月

監事監査

理事会 平成 29 年度決算

2018 年 6 月

評議員会 平成 29 年度決算

### 新理事選任

2018 年 11 月

理事会 中間報告

就業規則の変更

介護育児休暇の改正など

2019 年の予定

2019 年 2 月

理事会

平成 31 年度予算審議

平成 30 年度補正予算

審議

2019 年 5 月

監事監査

理事会 平成 30 年度決算

2019 年 6 月

評議員会

平成 30 年度決算承認

2019 年 11 月

理事会 中間報告



平成 30 年 6 月 評議員会



### 2019 年の成人を祝う会にて

障害のある子どもを立派に育て上げたご家族の苦勞に寄り添いの言葉を掛け、ご利用者本人に対しては、これからもご家族への感謝を忘れず、事業所ではいろいろチャレンジしてほしいと祝辞する理事長。

新年のスタートに当たり、ご利用者(児)の皆様、ご家族の皆様、そして役員の方々に年頭のご挨拶を申し上げます。

埼玉県行田市では穏やかな天候となった今年の元旦、私はゆっくりと自宅で過ごしました。元旦には群馬県をほぼ一周する実業団の「ニューイヤー駅伝」、2日、3日には「箱根駅伝」をテレビで観戦しました。平成最後の第95回箱根駅伝は、東海大学が10区間の合計タイム10時間52分9秒の大会新記録で往路2位から逆転し、46度目の出場で初の総合優勝。また、往路で6位と出遅れた青学大は3分41秒差の2位となり、総合5連覇はかないませんでした。

2019年の箱根駅伝の視聴率は、関東地区の視聴率が、平均で歴代最高の31.4%。2日の往路は30.7%(昨年29.4%)、3日の復路は32.1%(昨年29.75%)で、それぞれ歴代1位となったそうです。46年目にして東海大学が初優勝、記録も最速、視聴率も最高と驚きの話題でした。

2007年に産声を上げた私たち健翔会も、利用者、職員も増え総勢110名になりました。これからの健翔会が期待されます。

### 2018年(平成30年)の地域・国内・世界の出来事



2018年を振り返ると良い1年でした、と云えない出来事がおきました。特に7月の西日本豪雨では死者200人以上となる未曾有の災害が起きました。そして9月には北海道で震度6強の地震により、全ての発電所が発電を停止する「ブラックアウト」が起きました。医療的ケアを必要とする障害者にとって「ブラックアウト」の恐怖は計り知れないものであったと思います。

森友学園関連で財務省が文書を改ざんしていた問題は4月のこと。10月には中央省庁の障害者雇用水増し問題が発覚。2017年6月時点で、不正に3,700人を障害者として計上していたとする報告書が発表。法定雇用率を充足するため、恣意(しい)的で不適切な基準を用いていました。障害者雇用に対する意識が低く、ルールを無視したずさ

んな運用を少なくとも20年以上続けていた実態が明らかになりました。問題がなかったのは国の33機関のうち厚生労働省を含めた6機関だけ。結果、国の障害者雇用率は1.18%。法定雇用率の半分でした。公務員は自分たちの都合で法律の解釈を変える！ことが分かりました。

気になる事件も発生しました。建物の安全を支える免震装置に裏切りが発覚しました。装置メーカー、KYBで検査データの改ざんが脈々と引き継がれ、マンションや病院、教育施設など全都道府県の物件で不正が横行。全国に不安が広がったのも10月でした。

世界に目を向けると、アメリカではトランプ大統領が自我を発揮、貿易戦争の様を呈しています。「アメリカファースト」を合言葉にした人種差別もいとわない政策が次々と発表され、世界は混乱に陥っています。特に米中の貿易戦争はまだ始まったばかり。日本も農産物の輸入を押し付けられることは明白でしょう。これからの農業については、TPPを皮切りに、輸出型農業への大きな変換期に来ているのだと思います。



平成 30 年 12 月  
クリスマス会で挨拶する理事長



平成 30 年 12 月  
トランプ大統領と握手する理事長



平成 30 年 12 月 クリスマス会

### 事業の紹介

障害福祉サービス事業  
 麦の穂  
 大地  
 障害児通所支援事業  
 にじいろ  
 障害児(者)生活サポート事業  
 生活サポート麦  
 障害児(者)日中一時支援事業  
 日中一時支援 大地  
 収益事業  
 太陽光発電事業

## 2018年(平成30年)の健翔会を振り返る

2018年から読み取れる問題は2つ。一つは災害に対する備え、二つ目は品質に対するプライドです。

災害に対する備えについては、全事業所において3日分の食料と水を確保したほか、トイレの問題を解決できるよう備品も常備しました。また大地では太陽光発電した電力を自己消費に回すことで電力使用の問題も解決できるなど災害に対する備えが進んでいます。

二つ目の品質とは私たちに言い換えれば支援やサービスです。どんなことを考えて支援にあたるのかがとても大切です。実は理念の共有はとても難題です。人は力で

す。私たちの携わっている福祉事業は「人」ありきです。実は下町ロケット2の農作業とギアゴーストの撮影は行田市で行われていました。時折街中で撮影隊に遭遇したのでドラマもしっかり見ました。ロケット品質とプライドを掲げた佃製作所にはとても共感しました。

トップである私から渡辺マネジャー、そして事業所の責任者である前田理事、齋藤理事、細川理事へと理念が伝わればスタッフ一人一人が迷わず支援にあたれると考えています。一人一人のスタッフが自己のスキルアップを図れるよう環境を整える必要を考えさせられた2018年でした。

## 職員の皆さんへの2019年(平成31年)のお願い

高齢者施設における2025年問題。それは高齢者は2025年をピークに減少し始めることです。高齢待機者がいなくなる日が来るのです。きっと高齢者関連の人たちは戦々恐々でしょう。では、障害者はどうでしょうか？障害者も減少する時が来ます。その時に生き残る健翔会であるために私たちは少しずつ研磨研鑽する必要があります。それは目に見える改革ではなく、小さな変化だと思います。

私が思うに次の4点です。

1つ目は「清掃」「きれい」「清潔」といった考え方がスタッフに徹底されていることです。施設が明るく見えるのは、きれいだからです。照明が明るいゴミがたくさん見えます、ほこりも見えます。そのごみやほこりが見えないのは、常にスタッフが掃除をしているからです。掃除の時間ではなくとも、落ちていたゴミを拾ったり、ほこりを払ったりすることはできます。それらを徹底してください。

2つ目は、スタッフの明るい挨拶の声です。施設に入るとすぐにスタッフの明るい挨拶が聞こえてくる、そんな施設にしてください。その声は、誰なの？何しに来た

の？といった声ではなく、ようこそ！いらっしゃいました、という明るい声です。

3つ目は、気配り、心配りをしてください。スタッフは複数人のご利用者を同時に見守っています。皆さんの身体の向き一つで事故が起きないこともあります。さらに、周りのスタッフの行動も確認し、手伝ったり、声掛けをしたりしてください。自分が困ったことは他のスタッフも困っている！のです。

4つ目は、チャレンジです。時代が流れているのに足踏みしたら、後ろに下がっているのと同じです。時代の流れに合わせて進むためには、失敗を怖がらずにチャレンジすることが必要です。この4つは難しいことではなく、簡単なのに効果絶大です。小さな波は繰り返していると地形を変えるほどになるからです。

支援の品質の向上のため、「教える」「できたらほめる」「決して叱らない」のルールを守る努力を惜しまない勇氣をお願いしたいと思います。健翔会はこの12年間、成長を続けてきました。引き続き成長をしていくためには、スタッフの皆さんの力が必要です。健翔会のスタッフとして社会的責任を果たせるようになりましょう。

## おわりに

2019年もみんなワクワクするような仕組み、仕掛けを考えて、失敗を怖がらずに、働きましょう。1年後には、仕事が楽しい！そんな声がたくさん聞こえてくることを期待しています。

スタッフの皆さんが「仕事が楽しい」と思うことはご利用者のためになることです。ご家族もそう願っているはずです。ご利用児童、ご利用者が楽しめる施設になる為には必要なことです。

今年も皆さんにとって良い年でありますように祈念し、年頭の挨拶といたします。

### 社会福祉法人健翔会

〒361-0007

埼玉県行田市小見 1141 番地 1

電話: 048-554-8815

FAX: 048-554-8814

URL: <http://kenshokai.net>

ブログ: <https://www.facebook.com/kenshokainet>